

平成17年度 和歌山県文化賞

すぎ たに しょう こ 杉 谷 昭 子 (本名 岡田昭子)

住 所：東京都葛飾区

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：昭和18年

◎業績及び経歴

3歳でピアノを始め、8歳でデビューリサイタルを行う。矢田映子、井口秋子に師事して東京芸術大学卒業後ドイツに留学、デートレフ・クラウス、エリーザ・ハンゼン、ブルーノ・レオナルド・ゲルバー、アレクシス・ワイセンベルク、クラウディオ・アラウ等に師事。旧西独演奏家国家試験で1等賞を獲得することになるブラームスのピアノ協奏曲第1番の演奏が、大手マネージャーに認められ、同年デュッセルドルフでヨーロッパデビュー。昭和52年独シュヴアン社で初のソロアルバムをリリース。

昭和59年リリースのブラームス・ピアノ独奏曲全集、平成7年のベルリン交響楽団とのベートーヴェン・ピアノ協奏曲全集(ヴァイオリン協奏曲のピアノ版を含む)は、ともに女流としては世界初の快挙として記憶される。その間、世界の著名な交響楽団とロンドンのアルバートホールやアムステルダム・コンセルトヘボウなど世界の代表的なホールで演奏する。

近年では、平成13年12月ウィーン楽友協会大ホールにて、『熱情』ソナタを、平成14年11月には東京オペラシティホールにてカジミエシ・コルド指揮ワルシャワ国立フィルとベートーヴェン・ピアノ協奏曲5番《皇帝》を弾き好評を得るなど日本を代表する最も活躍中のピアニストの一人である。

また、シューマン音楽祭でベルリオーズ作曲／リスト編曲《幻想交響曲》を弾き、世界的な音楽学者並びに評論家のヨアヒム・カイザーやピアニ

ストのマルタ・アルゲリッチから賞賛されるとともに、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス室内楽定期演奏会に定期的に招聘され、また、ウィーン・フィルやベルリン・フィルのトップメンバーと室内楽の夕べを各地で展開するなど、国際的にも高く評価されている。

故郷和歌山においても、毎年コンサートやミニコンサート、幼稚園、小・中学校、高校でのスクールコンサートを定期的に開催するなど、本県文化の振興に大きく寄与されている。

■現在

クララシューマン国際ピアノコンクール審査員
フンメル国際ピアノコンクール審査員
全日本ピアノ指導者協会国際委員
和歌山音楽コンクール審査委員長
ショパン国際コンクールイン・アジア審査員

■主な表彰歴等

昭和57年 和歌山市文化奨励賞
平成2年 和歌山県文化奨励賞
平成9年 和歌山市文化功労賞
平成13年 和歌山市文化賞